

1 単元名

「てがみを かいて しらせよう ～相手に思いが伝わる文章を書こう～」

2 単元の目標

○歌のつどいに向けて自分が活動してきたことを伝え合い、いろいろな語句や文で表現する。 【知識及び技能】

○歌のつどいに向けた活動の中から相手に伝えたいことを明確にし、必要な事柄を集めて手紙を書く。 【思考力、判断力、表現力等】

○手紙をもらったり返事を書いたりする楽しさを感じながら、思いを伝えようとする。 【学びに向かう力、人間性等】

3 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A 〇年	・自分のしてきたことを単語で伝える。	・教師の手本を見ながら、文章を視写する。	・教師と歌のつどいについて話しながら、質問に答えたり、自分の言いたいことを言ったりする。
B 〇年	・教師の確認を得ながら、丁寧な言葉で文章を書く。	・教師の助言を受けて間違いに気づき、自分で適切な表現に直す。	・必要に応じて、もらった手紙を読み返しながら、その返事を進んで書こうとする。

4 単元と指導の構想

(1) 単元（題材）と児童（生徒）

○本校で最も大きな行事の1つである「歌のつどい」には、家族や地域の多くの方々が集まる。児童は「歌のつどい」に向け日々練習を重ね、友だちと協力して音楽をつくりあげていく過程を楽しんでいる。そこで、「歌のつどい」についての手紙を題材にすることで自分の思いや気持ちを言語化・文章化し、意欲的に書く活動に取り組めるようにしたいと考え、本題材を設定した。

○中高学年の児童が、すでに学んだことをもとに、単元の活動をリードできる場面をつくることを考慮する。

○児童の実態差が大きいので、単元目標は2つ以上設定することも考慮する。

(2) 指導の構想

○題材の導入は、児童の学習に対する動機づけが高まるよう、児童の興味・関心や身近な生活と結びつけて行うようにする。

5 単元（題材）の指導計画（全6時間 本時2／6）

次	時	学習のねらい（○）と主な活動内容（・）	評価規準（評価方法）＜教科＞
1 次	1	○『「歌のつどい」のことを手紙で知らせよう』というめあてをもち、学習計画を立てる。 ・前担任から届いた手紙を読む。 ・歌のつどいについて、お互いの取り組み状況について話す。 ・手紙を書きたいという気持ちをもつ。	○「歌のつどい」を見に来てほしいという思いをもって、手紙を書こうとしている。 (発言・対話・観察)
	2 本 時	○手紙を出す相手を決め、書く内容を話し合う。 ・手紙を出す相手を決める。 ・手紙を出した経験を発表し、手紙を書くために必要な事柄について話し合う。 ・手紙に書く内容を考える。	○手紙を書く相手を決め、必要な事柄や伝えたい事柄について考えている。 (発言・対話・観察)
	3 4	○手紙の書き方を知って、「歌のつどい」について知らせる手紙を書く。 ・必要な項目についてワークシートに記入する。 ・伝えたいことを明確にし、教師と一緒に、または一人で文章に書く。 ・相手を意識して、文末表現に気をつけて手紙を書く。	○手紙を送る相手に、自分の思いが明確に伝わるよう簡単な構成を考えている。 (発言・ワークシート) ○丁寧な言葉と話し言葉との違いに気をつけて、文章を書いている。 (ワークシート・手紙)
	5	○手紙を清書する。 ・ワークシートや下書きをもとに、丁寧に清書する。 ・書いた文章を読み返して、間違いなどを確認する。	○書いた文を読み返し、間違いを正したり、必要な情報が書かれているかなどを確かめたりしている。 (手紙)
	6	○宛名の書き方を知り、封筒に宛名を書いて仕上げる。 ・見本を見ながら、宛名を書く。 ・自分の名前を書く。	○宛名の書き方がわかり、正しく書いて手紙を完成させている。 (封筒)

6 本時の計画（4時間目／全○時間）

(1) 本時のねらい

○「歌のつどい」について、手紙を書く相手を決め、話し合いを通して、手紙を書くために必要な事柄や伝えたい事柄を考えることができる。(思考・判断・表現)

(2) 本時の構想

導入は学級全体で行い、同じ目的をもって学習に取り組めるようにする。また、本時の展開につなげられるように、前時を振り返る。展開①では柔軟な対応ができるように、発問に対する児童の反応を予測しておく。展開②では、児童の「手紙を書きたい」という意欲を高めることができるように、友達や教師との対話の内容を取り入れて展開する。手紙を書く活動は、実態等を考慮して個別に進める。

(3) 本時の目標と手立て

	児童（生徒）の実態	本時の目標	主な手立て
A 〇年	・書けるひらがなは増えたが、50音の読み書きは完全には習得できていない。 ・書くことは好きで、迷路や点結びが的確にできるようになった。 ・友達と同じことをやりたいという気持ちが強い。	・誰に、何を伝えたいのか教師と一緒に考える。	・手紙を書きたいという思いは強いので、話をよく聞いて、思いを整理していく。
B 〇年	・気持ちを表現することが苦手で、会話で言葉に詰まることが多い。 ・毎日振り返りを書くことで、出来事や気持ちを文章に表すことができるようになってきた。	・前担任に返事を書くという目的をもち、必要な事柄や伝えたい事柄を考える。	・手紙の返事を書くことを確認し、返事を書くために必要な事柄は何か問い掛ける。

(4) 抽出児童（生徒）について

抽出児Aは、書くことができるようになってきたことにより、文字を書くことに強い興味・関心を示し、50音の読み書きについて飛躍的な習得が見られる。そこで、本人の思いが実現できるように、本人の話を聞き、思いを整理し、手紙を書きやすい状況をつくる。この成功体験を重ねることにより、さらなる学習意欲につながり、文章の視写ができるようになると思われる。

一方、抽出Bは、少しずつ書けるようになってきているが、気持ちを表現することが苦手な上、書くことについての苦手意識が強く、学習意欲の低下が見られる。そこで、本人の前担任に返事を書きたいという思いを大切にし、前担任との思い出等の経験してきたことを整理することで、本人の前担任へ手紙を書きたいという思いを高め、その思いの高まりを大切にして、書くことへの興味・関心へつなげていきたい。

書くことについての実態が異なるAとBに対し、上述の手立てを講ずることにより、本単元の目標、並びに各個人の目標を達成できるものと考えAとBを抽出児童とした。

(5) 本時の展開

※Ver. 1 か Ver. 2 か選択する。

Ver. 1

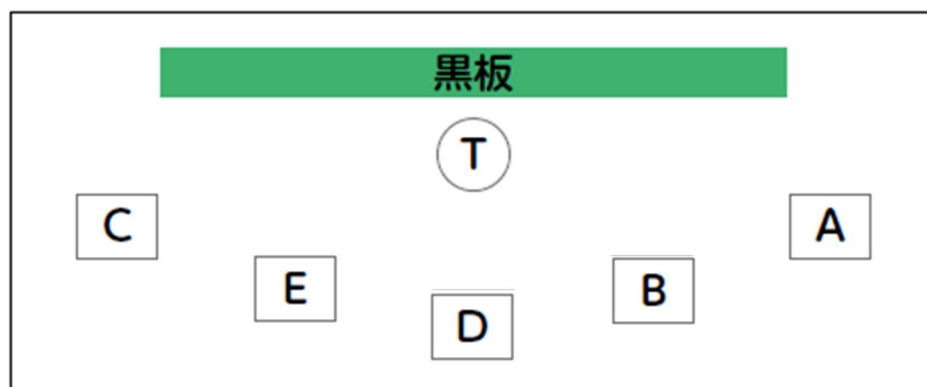
学習活動	教師の働き掛け (MTはT1、T2…、●=ST) と 予想される児童の反応	■評価・○留意点
導入 (10 分) 1 前時の学習を振り返り、 本日の課題を確認する。	S : 日直があいさつをする。 T 1 : 前時に読んだ前担任から届いた手紙の 続きを披露する。 S : 前時の学習を振り返り、手紙の続きがあ ることを知る。 T 1 : 手紙をもらったときの気持ちや出した経 験について問い掛ける。 S : もらって嬉しかった。書いて楽しかった。 T 1 : CさんとEさんには、昨年度行った手紙 を出す学習について問いかける。 S : ○○先生に手紙を書いたら来てくれた。 T 1 : 本日の課題を確認する。	
展開 (30 分) 2 「歌のつどい」について 手紙を書くことを確認し、 誰に手紙を書くか決める。 3 手紙を書くときに必要 な事柄を考え、歌のつどい について、手紙に書きたい 事柄を考える。	もらった人が うれしくなるような 手紙のかきかたを かんが えよう T 1 : 「歌のつどい」のことを知らせたいとい う思いが出るような投げかけをする。 T 1 : 誰に手紙を書くか決める。 S : お母さんに書きたい。○○先生 (前担任) に書きたい。 T 1 : 1年生の教科書の手紙文を提示し、手紙 の書き方 (初めのあいさつ、本文、結びの あいさつ) を確認する。 C E : 宛名を書くこと、切手が必要なこと等手 紙を出すときに必要なことを発言する。 T 1 : 「歌のつどい」について頑張っているこ とやできるようになったことなど、具体的 な様子を子どもたちに問い掛ける。 S : ○○ができるようになった。本番までにも っと○○できるようになりたい。	○前担任に手紙の返事 を出すという学習に したいが、家族など の名前が出てもし とする。 ■誰に手紙を書きたい かを言う。 【思考、判断、表現】 ○C Eの発言を視覚的 に残るように板書す る。 ■頑張っていること等 を考えて言う。 【思考、判断、表現】 ○子どもたちの発言を 手紙に書くと、もら った人は喜ぶことを 伝え、手紙を書きた いという自発的な思 いを高める。

終末（５分） ４ 次時の学習内容を確認する。	あいてのことを思って、手紙を書くとい T 1：次時に手紙を書くことを伝える。 S：日直があいさつをする。	■相手に伝えたいことを考えて言う。 【思考、判断、表現】 ○次時の内容を視覚的に残るように板書する。
--------------------------------------	--	--

(6) 本時の評価

抽出 A	誰に・何を伝えたいのか教師と一緒に考えて、教師に伝える。
抽出 B	前担任に返事を書きたいと教師や友達に伝えるとともに、必要な事柄や伝えたい事柄を複数考えて教師や友達に伝える。

(7) 環境構成図



Aさんについては、個別支援が必要になる機会が多いと想定されることと、右利きであるためにAさんの右側に教師がいると支援しやすいと考え、いちばん右側の席にする。また、Aさんは急に声を出す場合があるため、他児から受ける影響が少ないと考えられるBさんをその隣の席とする。また、Dさんは注意の持続が難しい実態があるため、黒板に注目しやすい中央の席とする。Eさんは、Dさんの注意が逸れた際などに、Dさんに適切な声掛けをする場面が見られるため、Dさんの左側の席とする。書く分量や行数の異なる3つのワークシートを用意し、児童の実態により使い分ける。

(5) 本時の展開

※Ver. 1 か Ver. 2 か選択する。

Ver. 2

学習活動	○教師の働き掛けと予想される児童（生徒）の反応 ■評価基準				○留意点
	A	B	C・E	D	
導入（10分） 1 前時の学習を振り返り、本日の課題を確認する。	MT：前時に読んだ前担任から届いた手紙の続きを披露する。 「○○先生は、みんなにこんな手紙をくれたよ。手紙をもらった感想を聞かせて。」 ○うれしい。 ○ST1：Aの発言に共感する言葉掛けをする。				○CEの発言を、ABDにも共有する。
		○「うれしい」という思いはあるがなかなか言えない。 ○ST1 Bに「どんな気持ち？」と優しく言葉掛けをする。	○もらってうれしい。 ○前に書いたときは楽しかった。 ○MT：昨年度行った手紙を出す学習について問いかける。 CE：●●先生に手紙を書いたら来てくれた。	○うれしい。 ○ST1：Bの発言に共感する言葉掛けをする。	
展開（30分） 2 「歌のつどい」について手紙を書くことを確認し、誰に手紙を書くか決める。	もらった人が うれしくなるような 手紙のかきかたを かんがえよう MT：「歌のつどい」のことを知らせたいという思いが出るような投げかけをする。 「手紙を書いたら、手紙をもらった人は、今年も「歌のつどい」に来てくれるかな？」 「誰にお手紙を書こうか？」（子どもの発言や姿等の状況により発言内容を変える） ○お母さん ○ST1：Aの発言に共感する言葉掛けをする。 ■誰に手紙を書きたい				○前担任に手紙の返事を出すという学習にしたいが、家族などの名前が出てもよしとする。
		○お父さん（もしくは無言） ○ST1：Bの発言に優しく共感する言葉掛けをする	C：●●先生 E：△△先生 ■誰に手紙を書きたいかを言う。 【思考、判断、表現】	○お母さんと弟 ○ST1：Dの発言に共感する言葉掛けをする。 ■誰に手紙を書きたい	

3 手紙を書くときに必要な事柄を考え、歌のつどいについて、手紙に書きたい事柄を考える。	かを言う。 【思考、判断、表現】	る。 ■ 誰に手紙を書きたいかを言う。 【思考、判断、表現】		かを言う。 【思考、判断、表現】	○ C E の発言を視覚的に残るように板書する。
	MT：1年生の教科書の手紙文を提示し、手紙の書き方（初めのあいさつ、本文、結びのあいさつ）を確認する。				
	○ S T 1：確認の内容を繰り返し伝える。	○ S T 1：板書を示しながら、内容を確認する。	C：宛名を書くこと E：切手が必要なこと等	○ C E のやりとりを見ながら、必要ことを言う。	
	MT：「歌のつどい」について頑張っていることやできるようになったことなど、具体的な様子を子どもたちに問い掛ける。 「歌のつどいに向けて、みんな頑張っているよね。この間の歌声もよかったよ。今は、どんなことを頑張っているのかな？」				
	○●●（単語で言う） ○ S T 1：Aの発言を拾い、その取組を称賛する言葉掛けを行う。	○・・・。（無言） ○ S T 1：Bに「どんなこと頑張っているの？」と優しく言葉掛けをする。	C E：●●ができるようになった。 C E：今、●●やっている。 C E：本番までに、●●できるようになる。 ■ 頑張っていること等を考えて言う。 【思考、判断、表現】	○ C E のやりとりを見ながら、頑張っていることを言う。 ■ 頑張っていること等を考えて言う。 【思考、判断、表現】	
	MT：子どもたちの発言を手紙に書くと、もらった人は喜ぶことを伝え、手紙を書きたいという自発的な思いを高める。 「みんなの頑張っている様子が、●●先生や△△先生に伝わると、きっと喜んでくれると思うよ。あいてのことを思いながら手紙を書くことが大切なんだね。どんなことを手紙に書こうか」				

	あいてのことを思って、手紙を書くとい ○●●（単語をいくつか言う） ○ST1：Aの発言を聞き、書き出す。書き出したメモを元にAの発言を整理する。 ■相手に伝えたいことを考えて言う。 【思考、判断、表現】	○・・・。（無言） ○ST1：●●先生に手紙を書きたいという思いが高まるように、「●●を頑張っていたね。」 「●●が上手になったね」とBの頑張っている姿を称賛する。 ■相手に伝えたいことを考えて言う。 【思考、判断、表現】	CE：●●できるようになったことを書きたい。 CE：●●先生に来て欲しいと書く。 CE：頑張っている絵を描きたい。 ■相手に伝えたいことを考えて言う。 【思考、判断、表現】	○CEのやりとりを見ながら、伝えたい内容をCEや教師に言う。 ■相手に伝えたいことを考えて言う。 【思考、判断、表現】	
終末（5分） 4 次時の学習内容を確認する。		MT：次時に手紙を書くことを伝える。			○次時の内容を視覚的に残るように板書する。